



四建二第 35 号  
平成19年 4 月 26 日

国土交通省道路局長 殿



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (提出)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありました、中期的な計画の作成にあたっての意見を別紙のとおり提出します。

## 中期計画作成にあたっての意見の提出について

市町名 四国中央市 市町長名 井原 巧

### ○重点化を進める上で特に優先度の高い政策

- ・大雨や地震などの災害への備え。地方は道路のネットワークが乏しく、国道が唯一の生命線であるため、国道が遮断されると陸の孤島になってしまう。当市には港湾施設があるが、16年災害時には流木が港を塞いでしまい利用出来なかった。
- ・1路線に全ての役割を持たすのではなく、地域に特質した役割を持った路線ネットワークの整備が街づくりの基盤となる。
- ・県境にある当市としては、県内の市町村との連携はさることながら、隣県と連携を取ったネットワーク（道路以外も含めて）を望んでいるが、県境がネックとなり連携が取れない。特に国道レベルは重要である。

### ○効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

- ・都市計画決定時より完成年度のスケジュール管理を図る事が大切ではないか。そうする事により地元住民にも受け入れやすいと思われる。
- ・都市計画道路の中には事業化の目途が立っていない路線もあり、住民に制限をかけ続けているので、見直していく必要がある。
- ・住民によるボランティア活動への参加、アイロード等は大切である。
- ・本四連絡橋の料金を高速道と同じ料金体系とし、ETCの割引等も同様にすべきではないか。

### ○その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

- ・道路のスタンダードを示して欲しい。市道であれば以前は2mであったが今では4mである。スタンダードの線があやふやであるので、最低限のスタンダードの議論をして示して欲しい。
- ・災害が起こった場合に、各道路管理者間での情報共有を、現場も含めたシステムの構築が必要ではないか。
- ・当市のある地区では、生活道路が1路線しかなく途中に大型車の離合が困難なトンネルがある。バイパス的なフルスペックのトンネルが良いが、昨今の情勢では難しいと思われる。せめて、今のトンネルを活用しつつ、1または1.5車線的なトンネル事業の採択ができないか。